

関西の活かしたい自然エリア(16 北摂・南丹)エコツアー

「関西の活かしたい自然エリア」の保全・活用のため、複数の府県域をまたいだ自然エリアを対象として、エコツアーを実施した。

1 エコツアーの目的

自然エリアについて、広域連合の特徴を活かし、保全・活用を進めるためのモデルとなる取り組みを実施する。複数の府県域をまたいだ自然エリア（北摂・南丹）を対象として、生物多様性や自然の恵みの重要性、自然と人の営み（歴史、文化）等の気づきを目的としたエコツアーを行い、自然エリアが行政や活動団体、旅行会社等に活用されるための足掛かりとする。

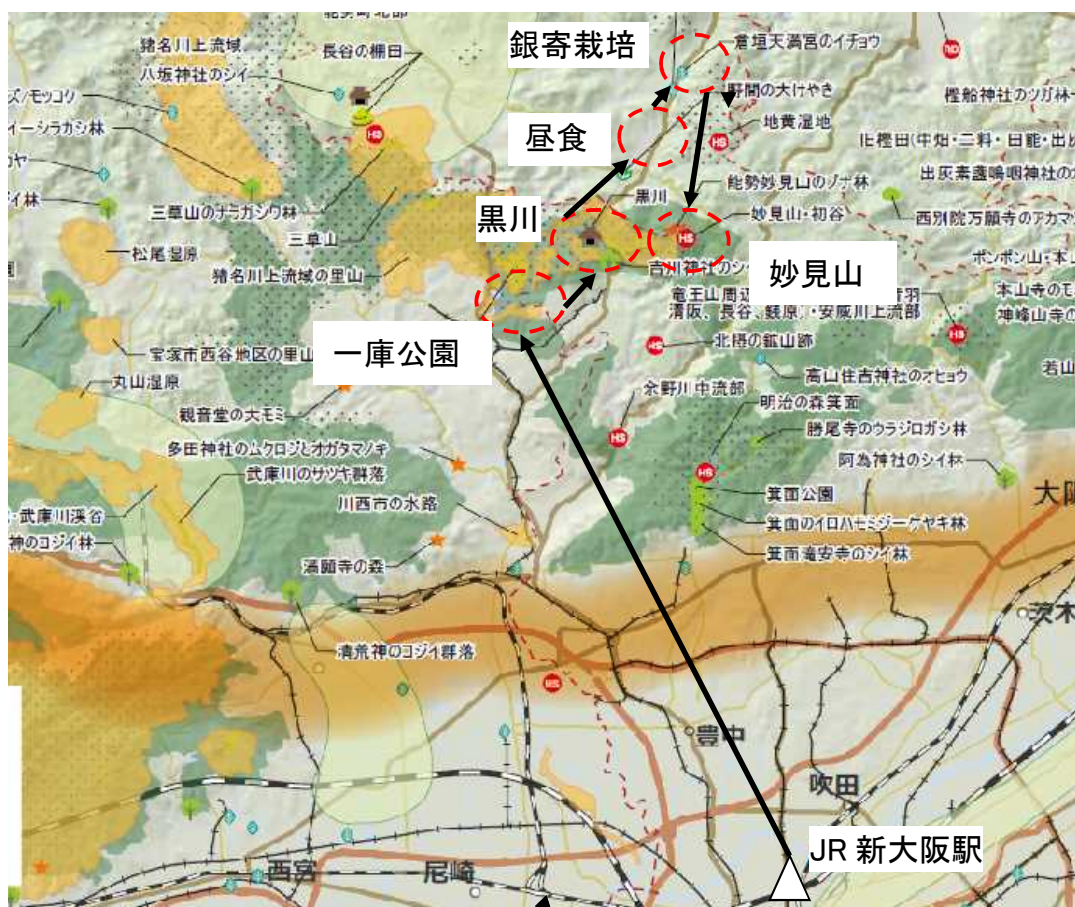
2 参加者等

- ・参加者は、検討委員、自治体、旅行業関係、企業の計 17 名。
- ・エコツアーの移動方法はバス貸切り。
- ・エコツアーは、各場所において有識者や保全活動実施者に解説していただく。

3 概要

1) ルートの概要

- ・自然エリア 16 北摂・南丹を巡るルートとする（下図参照）。



2) ルートの立ち寄り先・所要時間

■自然観察ツアーのルート及び所要時間等（午前9時～午後5時40分）

目的地等	所在地	着 時間	発 時間	備考
起点(JR 新大阪駅)			9:00	
一庫公園	兵庫県川西市 国崎字知明	9:50	10:30	里山の自然環境と炭作り文化の全体説明
黒川	兵庫県川西市 黒川	10:40	11:40	黒川のモザイク景観の解説 徳林寺付近の台場くぬぎと炭窯 クヌギ植樹場所の解説
野間の大ケヤキ	大阪府豊能郡 能勢町野間	11:45	11:50	国指定天然記念物の解説
昼食(みちくさ能勢)	大阪府豊能郡 能勢町地黄	12:00	13:10	前菜、サラダのビュッフェスタイル、8種類 の menu から選ぶ石窯ピザ、旬のとれた たて能勢野菜の石窯料理等が食べ放題 2,160 円
銀寄(栗)栽培	大阪府豊能郡 能勢町倉垣	13:20	14:30	伝統的に里山で栽培されてきた銀寄 (栗)の栽培と生物多様性との関連
黒川(妙見山)	兵庫県川西市 黒川	14:40	16:40	ケーブル、リフトにより黒川駅から妙見 山へ移動、ふれあい広場にて妙見山で の取組の説明、妙見山にて妙見山のブ ナ林保全活動の説明
終点(JR 新大阪駅)		17:40		

3) 実施日

9月24日(日)

4) テーマ

- ・今回のエコツアーのテーマは「里山と人のかかわり」
- ・里山の自然環境と人の営み、文化、伝統について理解を深める。

4 エコツアーの様子

1) 一庫公園

北摂地域の里山の自然環境と炭作り文化の全体説明。

この地域で生産された炭は菊炭（池田炭）と呼ばれ、茶の湯に用いる炭として京都などに出荷されていた。



ネイチャーセンターでの里山と菊炭の解説



一庫公園の炭窯にて、炭焼きの解説

2) 黒川

モザイク景観※の解説、徳林寺付近の台場くぬぎ※と炭窯跡、クヌギ植樹場所の解説。



モザイク景観の解説



黒川の炭窯跡



黒川の台場クヌギについて解説



黒川のクヌギ植樹場所にて解説

※モザイク景観：森林、農地、草地などあるいはいくつかの異なる段階、種類の森林がモザイク状に分布している景観。

※台場クヌギ：クヌギを地上から 1～2 メートルの高さで伐採し、新たに生えた幹を切って炭づくりなどに利用した結果、木の下部が土台ようになったクヌギのこと。

3) 野間の大ケヤキ

国指定天然記念物の野間の大ケヤキについて解説。



野間の大ケヤキ

4) 昼食（みちくさ能勢）

前菜、サラダのビュッフェスタイル、8種類の menu から選ぶ石窯ピザ、旬のとれたて能勢野菜の石窯料理等が食べ放題 2,160 円



石窯ピザ



農家民宿「みちくさ能勢」の外観

5) 銀寄（栗）栽培

能勢町倉垣の栗林にて、栗栽培の解説。栗林として維持管理することによる生物多様性の保全について解説。



銀寄の栗林

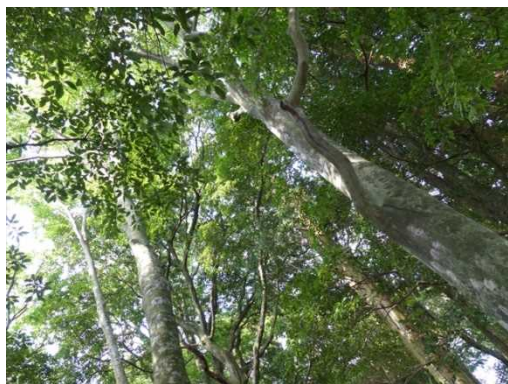


銀寄 LL サイズのもの

6) 黒川（妙見山）

妙見山での森林保全、エドヒガン（川西市天然記念物）保全活動について解説。

また妙見山の頂上付近のブナ林を訪問。ブナ林を守る取り組みについて解説。ブナなどの巨木の解説、ブナ苗の植栽、防鹿柵の設置、ブナの実生や結実等の調査などの取り組みについて説明があった。



ブナ林の様子



ブナ林内の様子



アカガシ巨木と参加者

5 各訪問地の概要

【訪問地： 一庫（ひとくら）ダム】

1. 一庫ダム

一庫ダムが建設された猪名川は、淀川から枝分れしている神崎川に流れ込む河川で、淀川水系に属しています。この猪名川の下流地域は戦後、経済の成長によって関西の中心地として急激な発展を遂げ、水不足が深刻な問題となりました。また、猪名川は、たびたび大洪水があり、そのたびに沿岸の人たちは大きな被害をこうむってきました。そこで、洪水調節機能をもった利水ダムとして1987年に竣工しました。

2. 兵庫県県立一庫公園

県立一庫公園は一庫ダムの湖水面に突き出た緑豊かな半島「知明山」にあります。このあたり一帯は近畿圏の近郊緑地保全区域や猪名川溪谷県立自然公園にも指定され、かけがえのない自然環境が残されています。この自然環境を保全し、この環境を活かした利用を進めることを目的に平成10年に開園しました。

本公園は地域の自然や文化を学ぶ場としても位置づけられ、自然と人、さらに人と人との出会いの場として整備されました。

今回は山のゾーンの入り口にある一庫地域の自然や文化を伝える拠点施設

『ネイチャーセンター』を訪れます。このセンターには一庫炭（別名、菊炭）の展示があり、地域の伝統文化を学ぶことができます。さらに近傍には現役の炭窯があり、冬季には炭焼き体験が行われています。



センター傍の炭窯



センター内の菊炭展示

引用・参考サイト

一庫ダム管理署：<http://www.water.go.jp/kansai/hitokura/>

兵庫県立一庫公園：<http://www.hyogo-park.or.jp/hitokura/>

【訪問地：黒川地区】

1. 黒川地区の特徴

市の最北部、黒川地区周辺は、昔ながらの懐かしい風景が広がる日本一とも言われる里山です。伝統の炭焼き（一庫炭）が守り続けられ、県のレッドデータブックで貴重な植物群落に指定されるエドヒガン（サクラ）の群落がみられます。昔はほとんどの家で炭を焼き、池田市へ牛車などで運んでいました。生活のスタイルが変わり、炭を使わなくなり、今は黒川地区では1軒だけになりました。そのほか、北摂栗や原木シイタケなどの林産物、山に囲まれた土地で米や黒豆、野菜などを作っています。黒川が日本一の里山と称されるのは・・・



- 全国的に貴重な今でも利用されている里山である（文化性）
- モザイク状の昔の里山景観が見られる（景観性）
- 平安時代までさかのぼれる（歴史性）
- カブトムシやクワガタムシ、チョウなどが生息する（生物多様性）

など多くの特徴を持っているためです。（広報かわにし H20 年 3 月 第 1208 号より）

2. 一庫炭（別名、菊炭）

一庫炭は古くから市内北部の一庫以北で生産されてきた炭の名称です。切り口が菊の花のように見えることから、別名菊炭と呼ばれ、茶席などに用いる極上の切炭として知られています。生産地から池田に運ばれた後、各地へ出荷されたため、生産地より集積地名が通称（池田炭）になりました。初めて文献にその名が現れたのは正保2年（1645年）に発刊された「毛吹草」です。「一庫炭…此所より池田の市に出て売なり故に是を池田炭共云」と記されています。また、久安寺（池田市）の記録に、文禄4年（1595年）に豊臣秀吉が同寺で観月の茶会を開いたときに池田炭を賞用したことが記されていたといわれ、歴史の古さを物語っています。（川西市史2・3巻より）

3. 地域の活動

「過疎の地域を元気づけ、みんなで考えて活性化すること」が課題で、黒川公民館に事務局を置き、平成18年に黒川まちづくり推進協議会を設立し、「黒川里山まつり」を主催しています。この他に菊炭受講生が集まり平成17年に結成された「菊炭友の会」による黒川桜の森の整備や川西里山クラブによる里山の保全活動などが行われています。



【訪問地：倉垣地区】

1. 能勢町の栗

世界では、くりは、日本ぐり、中国ぐり、ヨーロッパぐり、およびアメリカぐりの4種が栽培・利用されています。日本で栽培されているくりは、主に山野に自生している「しばぐり」から改良されたものです。能勢ぐり栽培の歴史は古く、文禄年間（1592年～1595年）に米の代わりにくりが食用に供されたという記録があり、今から約400年前にはすでに栽培されていました。「能勢ぐり」の名で親しまれている大阪府豊能地域のくりは、現在、能勢町、豊能町、箕面市（止々呂美地区）等で約200ha栽培されています。最も代表的な品種は「銀寄」で、栽培面積の約80%を占めています。

2. 銀寄（栗）と倉垣地区

江戸時代中期の宝暦3年(1753年)、歌垣村倉垣（現能勢町倉垣）の人が広島から持ち帰ったくりを植えたところ、そのうちの一本がとても良い実をつけたので、この樹を近隣に増殖させました。そして天明・寛政（1781年～1800年）の頃、歌垣村で大干ばつがあり、村人がこのくりを丹波国亀山に出荷したところ、多くの銀札（当時のお金）を得ることができました。以来、「銀を寄せる」という意味で「銀寄」と呼ばれるようになったといわれています。

3. 能勢ぐりの現在

昭和40年代には、集出荷場、選果機や選果場、冷蔵貯蔵庫等の施設が作られ、流通面が大いに改善されました。また、くり拾いのような観光農業が行われるようにもなりました。様々な害虫の発生による危機を乗り越え、平成5年(1993年)には、大阪府が取り組んでいるなにわ特産品育成事業で、特産「能勢ぐり」は「なにわ特産品」に選定されました。そして平成12年(2000年)5月1日、能勢町に能勢町観光物産センター「道の駅 能勢くりの郷」がオープンし、生産者自らによる直販が好評で、販売実績は年々右肩上がりとなっています。最近では、銀寄を中心とする能勢ぐりはマスコミやデパートの特売コーナー等で広く取り上げられ、多くの人に楽しまれています。(能勢ぐり物語 くりア・ラ・かると改訂版 より)

4. 栗林が創る生物多様性

江戸時代から続く栗林は、これまでと違った角度で注目されています。それはくり栽培地として維持されてきたことで、里山に生育、生息する動植物が守られてきたというものです。栗の維持と収穫作業のために定期的に草刈りが行われてきました。これにより様々な植物が光を得て生育できる場所を得ています。また、それら植物や栗の花の蜜や花粉を食べ物としている昆虫類が育まれています。虫媒花が必要となる果樹や野菜は多く、人の暮らしにとって生きものたちの良いバランスが維持されているのかもしれません。



【訪問地：妙見山】

1. 妙見山の歴史

その昔、妙見山がまだ為楽山と呼ばれていた頃、星の王様がこの山に降りてきたという言い伝えがあります。時は天平勝宝年中（750年頃）。村人達は行基菩薩に請い、その山頂に北辰星をお祀りしたのが当地の北極星信仰の始まりと伝えられます。時は流れ1603年、豪族である能勢氏の家鎮として古くから祀られてきた妙見大菩薩を法華勧請し法華経のご守護神として祀り、能勢妙見山がはじまりました。

能勢妙見山には鳥居があり「妙見宮」とも呼ばれますが、『日蓮宗霊場能勢妙見山』とあるように、日蓮宗のお寺です。能勢妙見山は、能勢町地黄の眞如寺の飛び地境内となっており、正式には「無漏山眞如寺境外（けいがい）仏堂能勢妙見山」といいます。昔は、神仏習合といい神様と仏様を同じようにお祀りしており、聖域と俗界を隔てるものとして鳥居が建てられました。明治になって、神仏分離(1868年)が行なわれ、居は神社に建てるものと認識されましたが、能勢妙見山は寺院ですが昔の名残で今も鳥居が残っています。



2. 一万年以上前から残る大阪府天然記念物「ブナの原生林」

妙見山の山頂付近には大きなブナの木が幅広く根を張っているのが見られます。一万年前から人の手が入っていないとされるこのブナの原生林は、大阪府自然環境保全地域として指定されています。日本のブナ林は温帯（年平均気温が6～13度C）の代表的な落葉樹で、日本の西南地方では一般に1000メートル以上の山に生育していますが、妙見山のブナ林は660.1メートルと比較的低い山に生育していることで珍しいとされています。

妙見山頂から西南の斜面にかけて周り2メートル以上のものが約100本もあって、中には直径が1.3メートルを越える大阪府下最大級のものも見られます。昭和58年5月2日に大阪府の天然記念物に指定されています。しかし、現在、地球温暖化に伴う気候変化やニホンジカの増加による実生や幼木の食害で、ブナの森、原生林の後継木が育たず継承の危機にあります。

3. ブナの森を次世代へ—能勢妙見山ブナ守の会の取り組み

能勢妙見山の境内には奈良時代より妙見大菩薩が祀られ、古くから聖域であったために守られてきたブナやアカカシの原生林があります。能勢妙見山ブナ守の会は、その環境と文化をみんなの手で次世代につなげていくことを目的としたボランティア団体です。様々なブナの苗木の植栽や防鹿柵の設置、生育調査などを行い、森を守り育てる活動を行っています。



□引用、参考サイト

日連宗霊場 能勢妙見山：<http://www.myoken.org/>

能勢妙見山 ブナ守の会：<http://bunamori.org/>